

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/A)

事業所番号	2770103782		
法人名	社会福法人 関西福祉会		
事業所名	陵東館秀光苑		
所在地	堺市北区長曾根町1199-6		
自己評価作成日	令和3年11月7日	評価結果市町村受理日	令和4年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年12月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

どうすれば混乱や不安無く、その人らしく生き生きと暮らして行けるのかをご本人や家族と相談しながら職員間でアイデアを出し合い個別に対応しています。  
 生活の場面で長年の習慣が自分で続けられることを大事にして、家族に聞き取りや相談しながら、好みの食べ物を用意したり入浴や睡眠が心地よくスムーズにとれるように、工夫し対応しています。  
 昨年からのコロナウイルス感染蔓延があり、感染予防対策のため外出できず外部との交流が極端に減ってしまいました。そのような中でも利用者同士が声を掛け合いお互いが支えあっている場面が多く見られ良い関係を支えていく支援を続けていきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の法人は「社会福祉法人関西福祉会」で堺市を中心にエリアを限定して高齢者総合福祉施設をはじめとして障がい者支援施設、こども園まで幅広い福祉サービスを展開している。法人は「地域に根差し、開かれた施設」をテーマに、高齢者、障がい者、子どもたちと地域住民が交流する施設を目指し、地域の行事(夏祭り、花火大会等)には積極的に参加している。全施設が参加する納涼祭、文化祭などでは地域参加型のイベントの開催に取り組んで多くの地域の参加者があり、笑顔あふれる交流を交わしている。職員の活躍する場をを広げ、積極的に取り組むバイタリティーある人材にはチャンスを与えるなど、キャリアアップを支援している。職員間はお互いに支え合い、働きやすく、スキルアップできる環境があり、離職者がほとんどなく利用者、家族は安心して任せられると喜んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員間で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。また、それを実践に繋げる事を意識して関わることを職員全員で声を掛け合っている。	「地域の中で共に支え合い、地域と共に歩む。自由な暮らし、やすらぎのある暮らし、自分らしさや誇りを持った暮らし……」など、事業所独自の理念をリビングに掲示している。地域のイベントに積極的に参加して、地域と事業所との関係性を大事にし施設の企画に地域の参加を呼びかけるなど地域密着型サービスの実践に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに呼んでいただき、定期的に参加させて頂いていたが、新型コロナウイルス感染症のため、この2年間は地域のイベント自体が中止となっている。	従来は地域の一員として、地域主催(花見大会、餅つき大会、夏祭り等)には積極的に参加するように努めている。施設の行事(納涼祭、紅葉祭)にはたくさんの近隣住民が参加し日常的に交流している。コロナ禍となってからは地域の行事が全て中止となっている。またあの時のように交流をしたいと利用者、職員は待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症のため、この2年間は地域に向けての認知症の理解など、地域に向けての発信はできていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面での開催をしている。毎回、ユニットごとに利用者の様子や取り組み、施設内での感染対策なども報告し、意見を交換している。	現在、運営推進会議は書面での開催を年6回実施している。事業所から①新型コロナウイルス感染症対策と面会について②活動③外出④食費についての報告を行っている。各関係者へ送付する際に、会議の内容、質の向上に向けて「ご意見用紙(意見や要望、提案を記入)」を同封し、意見などを求める工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	基幹型包括センターや市町村関係者とは事業所の運営などについて、疑問や相談したい内容があれば、すぐに連絡や相談を行うようにしている。	グループホーム連絡会議で北区の区役所職員や地域包括支援センター職員を招いて事業所の運営や相談など行っていたが、現在は勉強会と称してリモートでやっている。生活保護者も受け入れているため生活保護課へ出向き、医療券発給などの業務的な申請や相談を行っている。日頃からケースワーカーとの連絡はよくしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束防止委員会を設置し毎月、会議にグループホーム職員も参加している。 会議の内容は回覧し全員に周知している。 コロナ感染自粛中は人の行き来を止める為、残念ながら玄関は施錠していた。	身体拘束をしない取り組みを法人全体で研修を行い、職員に周知徹底している。身体的拘束等の適正化の為の指針と対策委員会を設置し頻繁(今年度は11回)に開催して、職員は身体的拘束について情報共有している。玄関は不審者侵入防止の為、鍵をしている。館内は自由に行き来できる環境にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に高齢者虐待防止委員会を設置している。グループホーム職員も参加し陵東館内のガイドラインを作成している。委員会を中心に法人内での勉強会を行ない、参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や法人からの情報などで学び研修の機会があれば参加し、研修記録を職場間で回覧して、周知出来るようにしている。 利用者の中には後見人制度を利用の方もおられ、職員は実際に後見人との面接の機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には家族、契約者に丁寧に解説を行っている。要点をまとめたチェックシートなども使用しつつ説明している。 契約改定の際は書面で変更内容を通知し連絡先も伝えている。 入所後も家族より、疑問、質問があれば対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域推進委員会、家族会が意見をくみ取る場であり運営に反映されるようにしている。家族の訪問時にその都度、利用者の様子を伝え状況を説明し、要望や意見をお聞きし利用者の支援に活かせるようにしている。しかし、コロナ禍という事もあり、この2年間は地域運営推進会議は書面開催のみとなっており、意見を汲み取りにくい状況ではある。	運営推進会議や家族の訪問時に気軽に意見、要望などを表せる機会はあったが、コロナ禍になってからは訪問自粛となり、利用者との面会についての要望の声に、事業所からは近況報告や写真などを送ったり、リモートを利用する工夫をしていたが、12月入って自粛も緩くなったので条件限定(日曜日で一家族2名まで、居室内での面会、)で面会が出来るようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、法人全体の会議とホームの会議があり、議事録を作成し共有している。定期的にカンファレンスや勉強会、会議で自由に発言し意見を出し合っている。	職場に必要な用事があれば、自然と職員自ら動き、お互いに支え合う風通しの良い職場である。職場の定着率もよく、10年以上の職員が多い。意見や要望(各種イベントの行い方や、非常勤職員の各種会議へ参加希望、)など、自由な発言が出来ている。最近では活動の幅が広がるWi-Fiの設置要望があり申請中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間に関しては残業を極力減らすように声を掛け合い定時に帰られるようにしている。有給休暇の取得もしやすくなりつつある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員の半数以上が認知症介護実践者研修を履修済である。 法人での毎月の研修会をおこなっている。新型コロナウイルス感染症の拡大ということもあり、この2年間は研修機会は減少しているが、リモートでの研修に参加などもあった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市グループホームの連絡会、北区内では毎月会合を開き、管理者間の交流、意見交換の場を設けている。その連絡会では勉強会を定期的で開催しており、各施設の職員も参加の機会を設けている。しかし、新型コロナウイルス感染症もあり、この2年間はリモートでの会合となっており、研修は中止している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の情報収集をし、面談を行ない困っている事や、不安に思う事を聞き取っている。それを元に入居の前に準備し新しい環境に不安に思うご本人の立場になり、安心して貰える声掛けを行ない様子を観察しながら共有の時間を通じて徐々に信頼関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に情報収集し、家族の元を訪れ、困っていることや不安に思う事に耳を傾け、意向や希望を受け止める姿勢を大事にしている。サービスについて分からないことがあれば納得できるよう説明し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要なことは何かということ職員間で随時、話し合っている。緊急性を見極め、法人全体で支援を行えるようにもしている。初期段階では24時間の生活チェック表を付けて本人の生活リズムや必要な事の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしている、ということを常に意識しながら、多くの事を知っている人生の先輩として学ぼうとする姿勢と敬う気持ちを大切にしている。家事や生活の身の周りの事を相談して行ったりお互いに役割分担できる部分を探し、共に支え合えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防の為、直接に面会をして頂く機会が減ってしまっているがご本人の近況を書類送付時に写真や手紙を添えて伝えたり電話でお伝えしている。ご本人への対応を一緒に考えたり、病院への付き添いをお願いしたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望される方に携帯電話を持ち込んで貰っており、自由に家族や友人に掛けてもらっている。 また自由に連絡が取れる事をお伝えし希望のある時には電話してもらっている。	利用者の家族、親戚、友人、知人の訪問がある。初めて突然の訪問者には必ず家族の了解を取ってから面会許可を出している。訪問者には気持ちよくお茶を出したりしてなごやかな雰囲気作りに努めている。以前は地域の知人も一緒に文化祭に来られていたが、コロナ禍で最近では自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、テーブルの配置や座席の位置を考え利用者同士がゆっくりと話せるように配慮し孤立やトラブルが無いように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所されるなど同じ法人の別のサービスに移られた方とも度々、顔を合わせる機会があり、引き続き挨拶や声を掛けている。特養の職員とも情報を共有したり相談に乗ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの状態に合わせた支援ができるよう、日常的なかかわりの中で、どう思い、どう暮らしていきたいのか意向を確認しながら接している。生活の中で垣間見る表情や言動などから本人の気持ちの理解に努め、本人本位の生活になるように支援している。	入居時に利用者の生活歴や暮らし方の希望、意向を記入しているフェイスシートを下に、職員は個々の状態(その人に合った出来る事、出来ない事)を把握している。だんだん体力が低下して、意向や希望を明確に把握できない場合は、日頃の行動や表情、仕草などを汲み取り、カンファレンスで話し合っ個人記録に記入している。..	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族にフェイスシートを記入してもらい、以前、利用のあった事業所があれば可能な範囲で聞き取りをし情報収集に努めている。 本人との日常の会話の中で今までの生活のことや暮らしのことを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、何か変化があったかを言葉や行動の中から見つけ出し記録し、カンファレンスしている。 臨機応変に対応出来るように情報を職員の間で共有し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からは随時、介護に関する意向を聴き反映させている。それと共に常に本人のそばにいて見守っている職員の意見も大切に、様々なアイデアを出し合いながらより良いケアにつながるようモニタリング、カンファレンスで検討し介護計画の作成を行っている。	長期目標を6ヶ月、短期目標を3ヶ月とし、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。本人、家族からの要望や暮らしの状況(本人が好きなこと、したいこと、嫌いなこと、したくない事など)を介護計画書に記入して、残存能力の維持に努めながら、楽しみのある生活を送ってもらうように介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に介護計画の内容を反映したチェックリストをつくり見直せるようにしている。日々の生活の様子やケアの内容も記録し職員間で情報共有や情報収集に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院などの必要な支援に柔軟に対応している。感染症対策のため外食や外出ができないが、外食の要望はあるため、外食の持ち帰りなどを利用し施設内で日頃、味わえないものを食べたり、同法人の施設の喫茶を利用し楽しんでもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス蔓延以前は地域のイベントに出かけたりボランティアの方や家族、友人と自由に出かけられ外部の地域資源を活用出来ていた。現在は施設内での行事や玄関先やごく近くの公園への散歩などに他の部署の職員の協力も得ながら参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設管理医師、看護師と連携を図り必要に応じた医療機関へ受診している。皮膚科、整形外科、歯科への受診も家族と相談し希望の医療機関へ受診出来るようにし、家族の付き添いで以前からのかかりつけ医を受診されている方もいる。	利用者・家族の同意を得て、全ての利用者が協力医療機関をかかりつけ医として、週2回訪問診療を受けている。歯科医は月2回歯科衛生士の同行で訪問診療がある。皮膚科や血管疾患などの専門医へは、家族同行を基本にしているが、状況により職員が付き添いしている。週1回訪問看護師による健康管理が行われ医師との連携体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの利用者が適切な受診や看護、処置が受けられるように、日々の関わりの中で変化や気づきをすぐに看護師に伝えて相談し協力を得て必要な医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、生活面を主としたサマリーを入院機関に提出し、本人の状態を伝え、面会に向いた際にはサマリーでは伝えきれなかった事業所での様子を伝えている。病院関係者からは入院時の様子、今後の生活についても相談し情報交換と相談に努め、入院をきっかけとした認知症の進行を防ぐため早期退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体の状況やADLの低下などは、変化のみられた早い段階からその都度家族にお伝えしている。法人の母体は特養であり、入居の際には基本的には看取りは行わず、特養への移行を勧める旨を伝えている。	入居時に「重度化した場合の対応方針」に基づき、利用者・家族に事業所で出来ることと出来ないことなどについて説明し意向を確認のうえ同意書を交している。重度化した時には、医師・看護師・利用者・家族が改めて話し合い、要望に沿った対応をしている。過去に看取りした例はあるが、近年は母体の特養や病院への移行を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網や緊急時対応をフローチャートにしたマニュアルなどを目の届くところに配置し、勉強会などで、職員は救命処置についてや緊急時対応の講習をうけている。緊急の搬送に備え利用者毎に連絡先や既往歴、服薬情報を記録した緊急シートを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に一度は他部署とともに夜間や日勤帯のいろいろな場面を想定して計画書を作り自主避難訓練を実施している。年に一度は総合的な訓練を実施し校区の消防署にも参加してもらい助言や確認をしてもらっている。	「消防計画」及び「地震防災対策マニュアル」に基づき、自主消防避難訓練を行っている。訓練は、3か月毎に夜間での想定や出火場所を都度変え、適切な避難経路に利用者を誘導しながら行なっている。災害備蓄品は、事業所内に水が保管されているが、食糧などは法人の厨房室などにまとめて保管されている。	2ユニットだが、2階から6階までの同一棟内にあり、オール電化対応になっている。発災時に迅速な対応を図るためにも、改めて必要と思われる備蓄品を協議し、事業所内での保管の検討と対応を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることが無いよう、言葉遣いや声のトーンにも注意している。 個人情報保護法についての研修に参加し、どういったことが個人情報に当たるのかなど施設で勉強会を行なった。	利用者の個性を把握し、入浴やトイレでの排泄時には、利用者の立場に立った声掛け（声の大きさやさりげ無い言葉）と誘導に心掛けている。研修会は毎年開催し、職員の資質向上と実践に活かしている。居室入り口にマジックミラーの小窓があり、プライバシー確保・安全確認・安眠重視について話し合い、利用者の要望に沿った対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人にどう働きかけたり、接すれば自分の思いや希望が表しやすいのか、自分で決められるのかを考えながら声掛けを行っている。普段の会話の中や表情、仕草からも汲み取るように心掛けている。自己決定や希望があらわしやすいユニットの雰囲気づくりも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、消灯の時間など一応設けているが本人の希望や体調、ペースに配慮しながら柔軟に対応している。また、生活において常に本人の意思を確認し、希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、また外出時などその都度、意識して本人と服を選んだり身だしなみを整えたりしている。服装や持ち物の何にこだわりがあるのか、長年の習慣なども日常生活のなかで、聞き取り、個人個人のスタイルにしていだいでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節やイベントに応じて趣向を変え、一緒におやつ作りをしたり喫茶に行くなど楽しんでもらえるように努めている。夕食は食材と献立が搬入されているが利用者の希望を反映し献立をアレンジしている。テーブルを拭いたりお茶を入れたり食材を取りに行ってもらったり何か役割を持つように働きかけている。	管理栄養士が作成した献立表により、朝食・昼食は法人の厨房室で調理された食事が運ばれるが、昼食の炊飯と夕食は各ユニットの職員が運ばれた食材で調理している。利用者は、出来る範囲で準備から後片付けに参加している。食事レクは、利用者の要望を把握してユニット毎に行なっているが、なべ物や焼き餃子などが好まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は記録に残して、職員全員が把握できるようにしている。一人一人の状態に合わせて食材の形状や調理法や量を工夫し、しっかり栄養が摂れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態や本人の力に応じて必要な物品を準備し、本人が取り組めるように声を掛けたり、手伝ったり必要なケアを行っている。 口腔ケアマネジメント計画書を立て歯科医師と歯科衛生士より助言やチェックをしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の生活リズムの自然な流れで、トイレでの排泄が可能になるよう、排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努めている。自立に近い方にはそっと見守りし、後に状況を確認したり、さりげなく誘導や声掛けをしている。紙パンツやパット類は本人に合わせて検討や見直しを行っている。	トイレでの排泄を自立と捉えており、職員は利用者個人の排泄パターンや習慣を共有し、適時に誘導している。トイレでの排泄が完全に自立できる利用者は1～2名いるが、個人の状態に合わせ、リハビリパンツ、パッド、オムツ、ポータブルトイレの使用の組み合わせを職員間で検討し対応している。入居後に布パンツに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には、好みそうな飲み物や乳酸菌飲料を家族と相談しながら持ってきてもらい水分を多く飲んでもらったり排泄パターンを掴んでトイレに誘導し長めに座ってもらったりしている。排便状況を看護師に伝え相談し内服薬のコントロールをしたり朝のラジオ体操を行ない、水分補給してもらうなど内外から働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には、その都度その方に合わせて湯温を調整したり、好みのボディスポンジや髭剃りの道具や入浴後のクリームを準備している。入浴を好まれない時には無理には勧めず、時間をあけて誘ってみたり体調が合わなければ後日入浴できるようにしている。季節の湯を用意したり、入浴を、ゆっくり楽しめるようにしている。	入浴は、3日に1回で午前中としているが、利用者の要望により夜の入浴や回数を増やすなど臨機応変に対応している。拒否する利用者には、無理強いせず居室の洗面台の利用、声掛け、誘導方法など工夫して入浴を促している。ゆず湯、しょうぶ湯などの季節湯や、利用者と楽しく対話することに心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や騒音に配慮して良眠できる環境作りに努めている。ポアシーツを敷いたりクッションや毛布など好みの寝具を持ち込んでもらっている。 布団カバーも混乱される方には外している。 一人一人の長年の習慣や認知症の進行に合わせて安眠出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースファイルに服用している薬の情報を添付しており、いつでも確認している。必要に応じて服薬助や確認を行っている。また誤薬を防ぐため名前のついたファイルに指示薬を入れ服用前にもう一度名前の確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯等、家事全般をなんらかの形で役割を持って貰えるようにしている。日常生活の中で色々なお手伝いをお願いし、頼まれごとに応じて貰う事で張り合いを感じていただけるようにしている。各職員の独自のレクリエーション活動で体を動かす、大きな声で歌う、作品を創り上げる等、気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、感染予防のため外出の支援は控えているが天気の良い日には玄関先まで行ったり6階のベランダを散歩し自分の地域を見ながら話すなど外気に触れリフレッシュしてもらっている。 同法人のお茶を楽しめる施設が車で5分の場所にでき月に一度出かけ気分転換と交流が出来るようになった。	現在は、コロナ感染防止のため外出の自粛をしているが、天候の良い日には6階のベランダで周辺の風景を観ながらの散歩や玄関先に出るなど、気分転換や5感刺激の機会を作っている。外出に変わって室内でのレクリエーション(風船バレー、ボーリング、射的など)を増やしたり、全員で唱歌で楽しむなど工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に応じて、お小遣いを持ってもらい、施設内の自動販売機で自分で購入出来るようにしている。現在はコロナウイルス感染防止のため行なえないが外出時などお小遣いを持って頂いて買い物と一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には、携帯電話を持ち込んでもらい、自由に家族や友人に掛けることができる。 子どもが同じ法人の障がい者施設に入居している方には毎週、手紙や電話のやり取り出来るように支援している。家族からの差し入れやプレゼントが届くと電話をかけてもらい、直接気持ちを伝えてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活音、匂い、季節感を意識的に自然に取り入れるようにしている。緑や花々、その季節に合った物を置いたり、壁に掲示している。居間の窓は見晴らしが良く、自分が生活していた地域が見えベランダのプランターの手入れをしながら、会話されている。	エレベータ内や居間・食堂の壁には、利用者と職員が作成した季節感のある紙細工や、行事の写真が掲示されている。共用空間は、テレビやソファのほか、ところどころに観葉植物が置かれ、陽光が降り注ぐ明るい空間になっている。空気清浄機による換気や利用者間の距離を置いた食事など感染対策が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在、コロナウイルス感染予防のため向かい合わせにならないような席の配置をしている。 テレビをじっくり観たい、会話を楽しみたいなど思い思いに過ごせるように席を配置し、皆さんの気配を感じながら一人でゆっくりできるソファを少し離れたところに置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に自宅より使い慣れた物を持ち込むようにして貰っている。テレビやステレオなど個人の趣味が居室内で楽しめるようにし居心地よく過ごせるようにしている。 若い頃や家族との写真を飾ったり施設内での写真や自身で作った作品などを壁に貼り自分の部屋に戻ったという安心感を感じていただけるようにしている。	居室は、ベッド、タンス、洗面台、カーテン、エアコンが備え付けで、車の騒音防止対策として2重窓にしている。利用者は、テレビや思い出の写真、仏壇などを自由に持ち込み、一人ひとりが居心地よく暮らしやすい居室になっている。掃除は、週1回職員が行うが利用者は出来る範囲で参加している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過度な見守りや付き添いは避け、事故に配慮しつつ、利用者自身が選択し移動出来るようにしている。苑内、各箇所に手すりを設置。自由にエレベーターを使用してもらったり居間につながる階段も開放し、個人の選択でどちらでも使えるようにしている。		